

社会福祉法人 ^墨 _群 済生会支部埼玉県済生会栗橋病院			
文書名	院内感染防止対策マニュアル0-1：リハビリテーション科		
文書番号	感対-共手-0 部門別対応マニュアル 1-001-170901	ページ	

文書改訂履歴

版数	改訂 頁	改訂内容	作成日 作成者	承認日 承認者
1	—	新規発行	2017.9.1	2017.9.1
			小美野 勝	長原 光

社会福祉法人 ^{豊田} 済生会支部埼玉県済生会栗橋病院			
文書名	院内感染防止対策マニュアル 0-1：リハビリテーション科		
文書番号	感対-共手-0 部門別対応マニュアル 1-001-170901	ページ	

0-1：リハビリテーション科

○MRSA・緑膿菌・多剤耐性緑膿菌・セラチア

訓練室にて行う場合は、時間帯は日の最後に行い、他の患者との同室を避けましょう。患者が多数の場合は、同室にて訓練施行としますが、患者同士の接近・接触はできるだけ避けましょう。

使用後の消毒方法は、分泌物が付着した場合はそれをふき取り、消毒液（エコ消エタ）でその場所を拭きましょう。使用後のマット・訓練用品（重錘バンド・ポール・平行棒等）も消毒液で拭きましょう。

訓練室で排出された汚染物質は、感染性廃棄物ボックスに破棄しましょう。マスクは喀痰が認められる場合は着用しましょう。

○感染症胃腸炎（ロタ・ノロウイルス等）

時間帯はなるべく他の患者との同室を避けます。患者が多数の場合は、同じ訓練機器の使用を避けましょう（平行棒等）。また使用後の訓練マットや訓練機器は次亜塩素酸ナトリウムで拭きましょう。訓練室で排出された汚染物質は、感染性廃棄物ボックスに破棄しましょう。

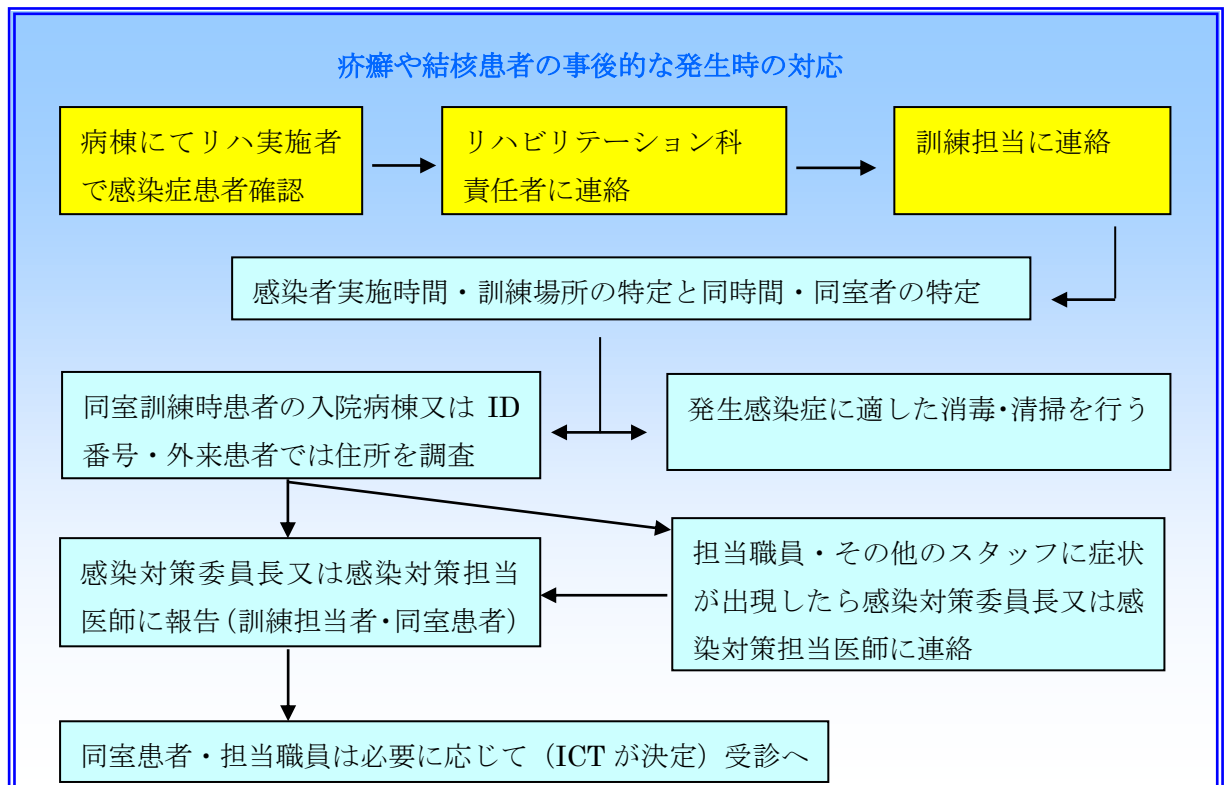
○疥癬

疥癬は基本的に病棟でのベッドサイドリハを施行とします。

疥癬発生が事後的に確認された場合の対処は別紙のフローチャートを使用。

○結核

結核患者が事後的に確認された場合の対処は別紙のフローチャートを使用。



スタッフはスタンダードプリコーションを守りましょう。